

様式2号

三次市議会議長 様

視察等報告(復命)書

報告者氏名 藤岡 一弘

下記のとおり、研修が終了したので報告します。

	会派代表者	印	経理責任者	印
研修議員	藤岡 一弘			
期 間	令和2年1月22日～1月24日			
研修等先	衆議院議員第一会館、参議院議員会館、			
研修事項	学校情報化、全世代型社会保障について、特別交付税要請			
研修等内容	1 学校情報化のこれまでの動きについて 2 全世代型社会保障改革について 3 衆議院議員第一会館、参議院議員会館(特別交付税要請)			
参考になった内容及び所見	1 学校情報化のこれまでの動きについて ～GIGAスクール構想の実現～ ①学校におけるICTを活用した学習場面 〈一斉学習〉 教員による教材の提示(画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用) 〈個別学習〉 ・個に応じる学習(一人一人の習熟の程度等に応じた学習) ・調査学習(インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録) ・思考を深める学習(デジタル教材を用いた思考を深める学習) ・表現・制作(マルチメディアを用いた資料、作品) ・家庭学習(情報端末の持ち帰りによる家庭学習) 〈協働学習〉 ・発表や話し合い(グループや学級全体での発表・話し合い) ・協働での意見整理(複数の意見・考えを議論して整理) ・協働制作(グループでの分担、協働による作品の制作) ・学校の壁を越えた学習(遠隔地や海外の学校等との交流授業) ② GIGAスクール構想 〈ハード面〉 ICT環境整備の抜本的充実 ・児童生徒1人1台コンピュータを実現(令和5年度までに、小中全学年で達成) ・高速大容量の通信ネットワーク(令和2年度までに、全ての小中高・特別支援学校などで完備) 〈ソフト面〉 デジタルならではの学びの充実 ・デジタル教科書・教材など良質なデジタルコンテンツの活用を促進。			

- ・各教科等ごとに、ICTを効果的に活用した学習活動の例を提示。
 - ・AIドリルなど先端技術を活用した実証を充実。
- 〈指導体制〉 日常的にICTを活用できる体制
- ・(独)教職員支援機構による、各地域の指導者養成研修の実施。
 - ・ICTアドバイザーによる、各都道府県での説明会・ワークショップの開催。
 - ・ICT支援員など、企業等の多様な外部人材の活用促進。

③ 所感

・タブレット端末などを配布することで、家庭などでの遠隔授業も実施することができ、不登校児童生徒の学習支援や災害などの緊急非常時における学習支援に期待ができると考える。

2 全世代型社会保障改革について

① 全世代型社会保障検討会議 中間報告の概要

〈年金〉 受給開始時期の選択肢の拡大→年金受給開始時期について、その上限を75歳に引き上げること等を検討。

〈労働〉70歳までの就業機会確保及び中途採用・経験者採用の促進等

〈医療〉・医療提供体制の改革

- ・後期高齢者の自己負担割合の在り方
- ・大病院への患者集中を防ぎかかりつけ医機能の強化を図るための定額負担の拡大→紹介状なしで大病院を外来受診した場合に定額負担を求める制度(初診時 5,000 円・再診時 2,500 円以上)の検討

② 所感

・大病院を外来受診した場合における定額負担について、各地域の医療施設の事情を考慮して金額等を決定する必要があると考える。

3 衆議院議員第一会館、参議院議員会館(特別交付税要請)

災害復旧などの取組に、各議員が理解を示していただく。